

知らなきゃ損!!

精度が上がる

テクニカル分析に必要な



基礎知識

～はじめに～

今回、【精度が上がる、テクニカル分析に必要な基礎知識】コースをご購入いただきありがとうございます
私は投資歴8年(為替4年、仮想通貨4年)※2024年現在、専門トレーダーの【Yasu】と言います。

投資初心者の方、なかなか勝てるようならないと悩んでいて

- ・何から学べば良いかわからない
- ・自分が勉強した事が正しいのかわからなくなってきた
- ・勝敗は半々なんだけど、なぜか損失の方が多い

など

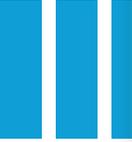
色々あると思いますが投資をしている人は、いつか必ず通る道。

自分の場合は過去に500万円以上の損失を抱えたり

リアルタイムで120万円を30分で失われる瞬間を見るなど様々ありました

そんな自分が今では過去の損失を全て取り返し年間収益はプラスで 終え、専門トレーダーとして活動出来ています。

今回のコースも含め何種類かのコースに分けて自分が培ってきた知識や経験を執筆しているので
そのままマネるもよし内容を噛み砕き、皆さん一人一人の中に取り込んで皆さんなり的手法を作って行っていただければ幸いです



<目次>

・はじめに

①ダウ理論

②フィボナッチリトレースメント

③ローソク足・チャートパターン

④水平線(レジスタンスライン、サポートライン)

⑤平行チャネル(トレンドライン)

①ダウ理論

ダウ理論とは、値動きを分析する為の投資の基礎とも言える理論です。
主に6つの基本法則で出来ており、

1. 価格は全ての事象を織り込む
2. トrendは短期・中期・長期の3つに分類される
3. 主要なトレンドは3つの段階から形成される
4. 価格は相互に確認される必要がある
5. トrendは出来高でも確認される必要がある
6. **トレンドは明確な転換シグナルが出るまで継続する** ← **最重要法則**

～価格は全ての事象を織り込む～

経済指標や金融政策などの【**ファンダメンタルズ**】要因、戦争やテロ、災害などの【**地政学リスク**】、【**投資家心理**】を含めて全ての事象はチャートの値動きに反映され、相場の値動きは、これらの事象を受けて形成される需給バランスによって日々変動しており、逆に言えば全ての情報が折り込まれた結果が現在のチャートであると考えられます

【**チャートが全てである**】とも言える、この考え方はFXにおいてチャート分析を重要視する事に根拠になります

～トレンドは短期・中期・長期の3つに分類される～

- 半年～1年以上継続する「長期トレンド」
 - 数週間～数ヶ月継続する「中期トレンド」
 - 数日～数週間継続する「短期トレンド」
-

～主要なトレンドは3つの段階から形成される～

- ・【先行期】(エリオット波動1波、調整A波)

一部の先行投資家が底値で買ったり、天井から売ったりして価格に緩やかな動きが出る時期

- ・【追隨期】(エリオット波動3波、調整B波)

先行期の動きに市場全体が追隨して急激な価格変動が起き出来高が一番多くなる時期

- ・【利食い期】(エリオット波動5波、調整C波)

先行期にエントリーしていた投資家が利益確定を検討、実行する時期

～価格は相互に確認される必要がある～

【より高い精度でトレンドを捉える為には、複数の銘柄で同じトレンドを確認するべき】

という事。

株式市場の分析で、より重要となる考え方ですがFXに当てはめるならば、相互関係のある通貨ペアや指標を確認するのが重要

～トレンドは出来高でも確認される必要がある～

【トレンドの信頼度は出来高によっても確認できる】

という法則。

出来高とは取引量の事を指し、通常であれば、価格が上昇すると勢いに乗じて売買したいとトレーダーが集まってくるため、出来高も上昇する傾向があります。しかし、価格が上昇しても出来高が上昇しない場合(ダイバージェンス)があり、そのようなケースではトレンドが転換している可能性を疑った方が良いという事です。

<トレンドの特徴>

- ・トレンドが伸びる程、トレンドの勢いは落ちていく
- ・不安と利確が増え反対勢力も強まる

～トレンドは明確な転換シグナルが出るまで継続する～

ダウ理論では、高値と安値（一定期間のトレンドの中で最も高い価格と最も安い価格）に注目し、連続する高値・安値より上に位置する（切り上げる）状態が「**上昇トレンド**」

下に位置する（切り下げる）状態が「**下落トレンド**」と定義されています
（高値も安値も切り上がりも切り下がりもしていない横ばいの状態を**レンジ**）

これらのトレンドは「**上昇トレンドで高値を更新せずに安値を更新する**」

「**下降トレンドで安値を更新せず高値を更新する**」といった**シグナルが出ない限り基本的に継続して行く**という法則です

高値更新・安値更新⇒上昇トレンド継続

高値未更新・安値更新⇒下降トレンド継続

※ちなみに

【上昇トレンド終了＝下降トレンドへ転換】

【下降トレンド終了＝上昇トレンドへ転換】

という認識は間違いで、

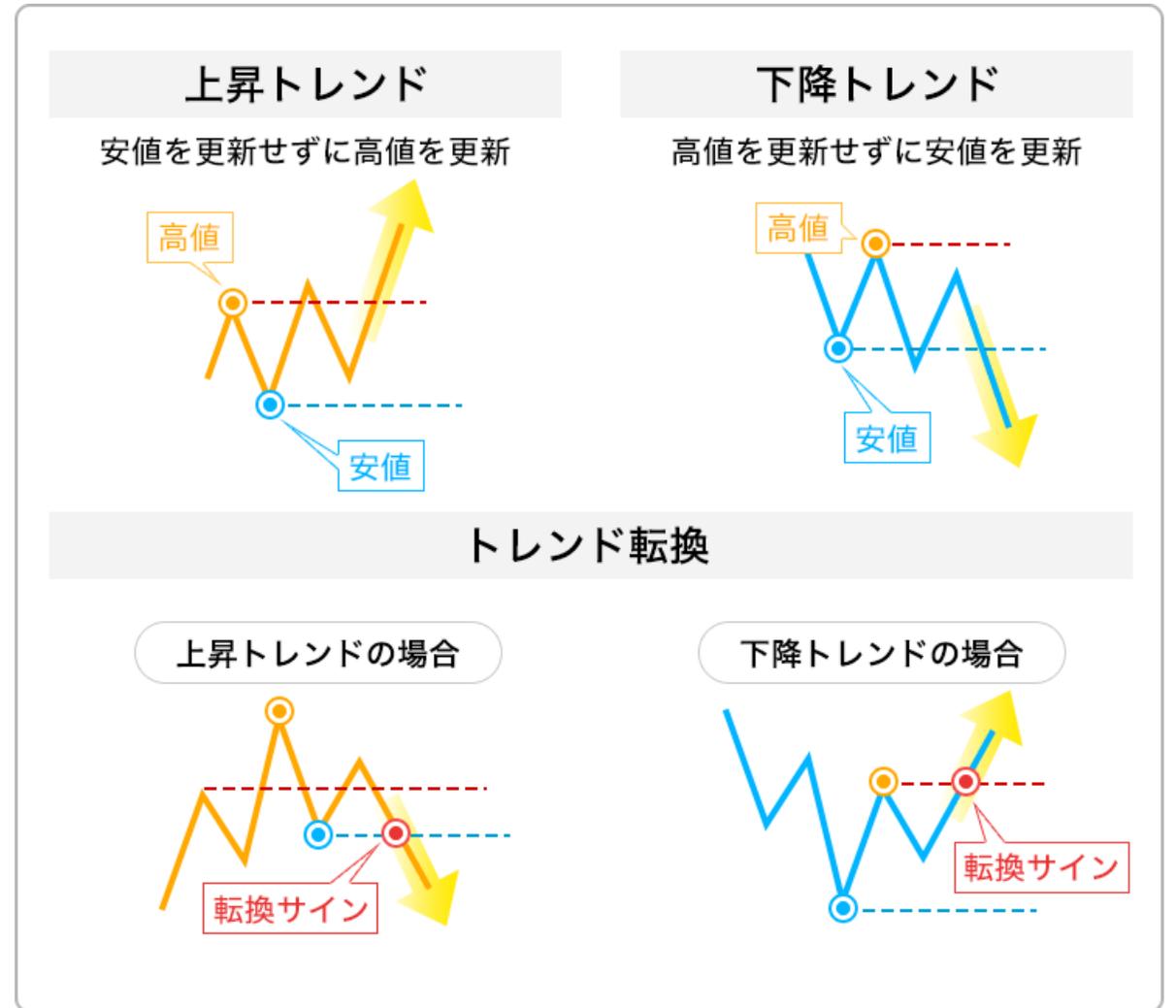
【上昇トレンド終了＝トレンド不明(レンジ)⇒再度トレンド転換のシグナル発生⇒

下降トレンドへ転換 or 上昇トレンド再開】

【下降トレンド終了＝トレンド不明(レンジ)⇒再度トレンド転換のシグナル発生⇒

上昇トレンドへ転換 or 下降トレンド再開】

が正しい認識になります



②フィボナッチ・リトレースメント

フィボナッチ・リトレースメントはトレンド相場における反発(押し目)や反落(戻り目)のポイントを見極める為のツールです。

トレンド相場であっても、価格は直線的に上昇や下落を続けるわけではなく一時的にトレンドと反対の方向へ向かう事を繰り返しながらトレンドを形成していきます。



フィボナッチリトレースメントを描画する際、直近の高値と安値を選択すると自動的に、0%、23.6%、50.0%、61.8%、76.4%、100%などの比率に基づいたラインが引かれます。

その中で特に注目されるのが【**23.6%、38.2%、61.8%**】のライン。

これらのラインがサポートラインやレジスタンスラインになり易いと言われてい
ます

③ローソク足・チャートパターン

ローソク足は、1本で各時間足の値動きを表していて、大きく分けて【陽線】と【陰線】の2パターンに分類されます。

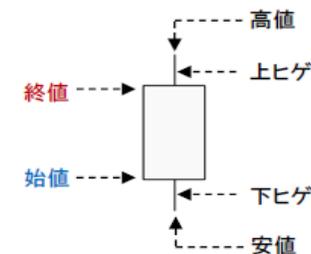
始値よりも終値の方が高い場合を【陽線】

始値よりも終値の方が低い場合を【陰線】

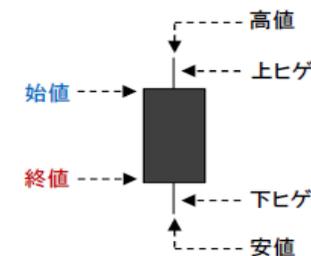
と呼びます。

また上ヒゲと下ヒゲの長さから高値と安値を読み取る事が出来ます

陽線(始値より終値が高い)



陰線(始値より終値が安い)



ローソク足は陽線・陰線の種別のほかに、ヒゲの長さなどにより様々な形が作られ、それぞれの形には名前が付けられ、その形によって強気・弱気のサインを見極める事が出来ます

陽線									陰線									その他							
ローソク足										ローソク足										ローソク足					
名称	大陽線			小陽線		下影陽線		上影陽線		名称	大陰線			小陰線		下影陰線		上影陰線		名称	寄引同時線				
	丸坊主	大引け坊主	寄付き坊主		コマ	カラカサ		トンカチ		丸坊主	大引け坊主	寄付き坊主		コマ		カラカサ		トンカチ		トンボ	トウバ(塔婆)	十字線	四値同時線		
特徴	上昇一辺倒で強気のサイン	一時マイナスに転じるも高値引け。強気のサイン	基本的に強気のサインだが、高値圏での出現には注意したい	買い方の強さを表す	様子見姿勢の強さを表す	底堅さの表れ	売り一巡。下落基調のなかでの出現は株価反転の兆しに	底堅いが上値の重たさも目立つ	一時的に上げ幅を拡大するも持続せず	下落一辺倒で弱気のサイン	一時プラス圏に浮上するも売りが優勢に。売りのサイン	安値からはやや戻すも売り圧力の強さを表す	売り方の強さを表す	様子見姿勢の強さを表す	上値の重たさを表す	安値圏で出現すれば反転の兆しも、高値圏では警戒感の表れ	底堅いが、やや売りが優勢	高値圏で出現すれば買い一巡のサイン。下落に転じる可能性		一時的に売り圧力が強まるも、買戻しが入ったケース。安値圏で出現すれば株価反転も	売り圧力に押し戻された形。高値圏では売りのサインとなる	様子見姿勢の強さを表す。転換を示唆。	商いも薄く値動きがない状態。転換を示唆している場合も。		

チャートパターンとは、トレンドの転換や継続を予測する相場分析方法です。

サポートラインやレジスタンスラインのように、チャート上へ線を引きいくつかの方を覚え相場分析をします。

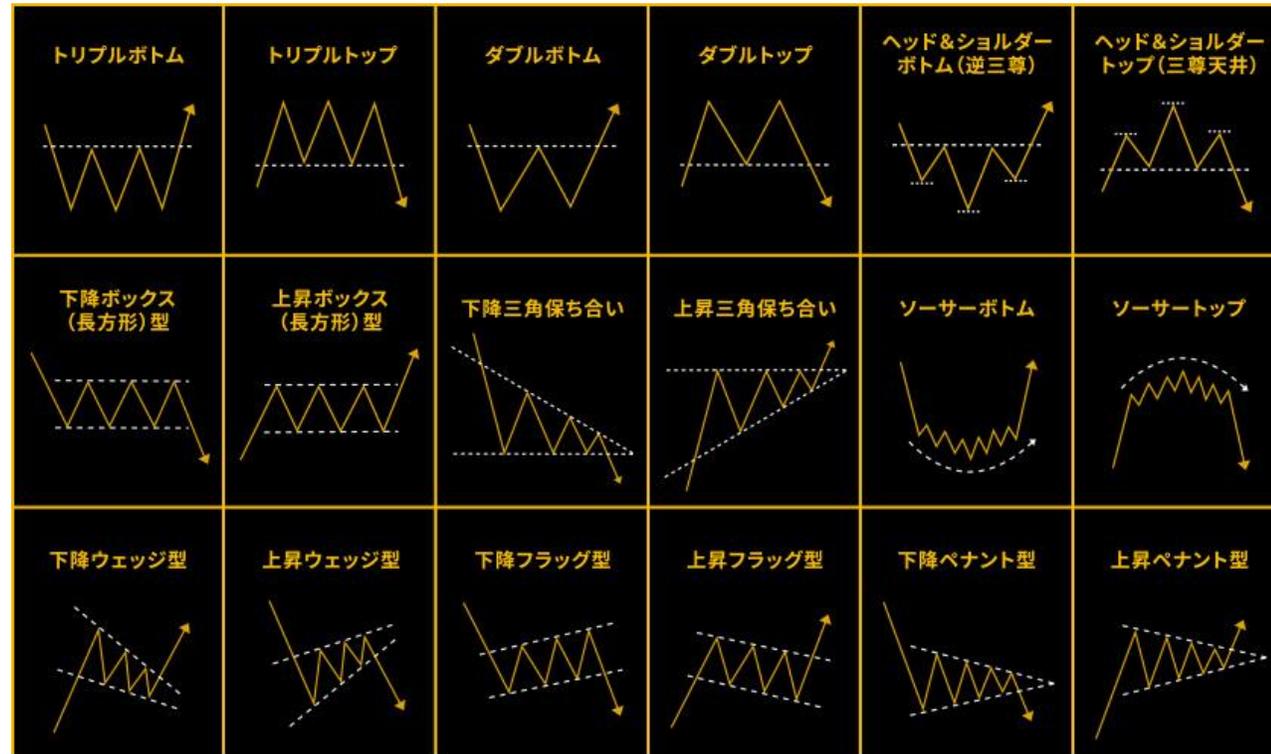
移動平均線や一目均衡表の様なインジケータを利用する訳ではありません。

相場では過去に起きた値動きと全く同じ値動きをすることはなく

過去チャートと似た値動きになる事はありますいくつか覚えておく事で

相場分析のスピードや精度を上げる事ができ、利益を上げる機会を増やす事に繋げる事も出来ます

～覚えておくべきチャートパターン～



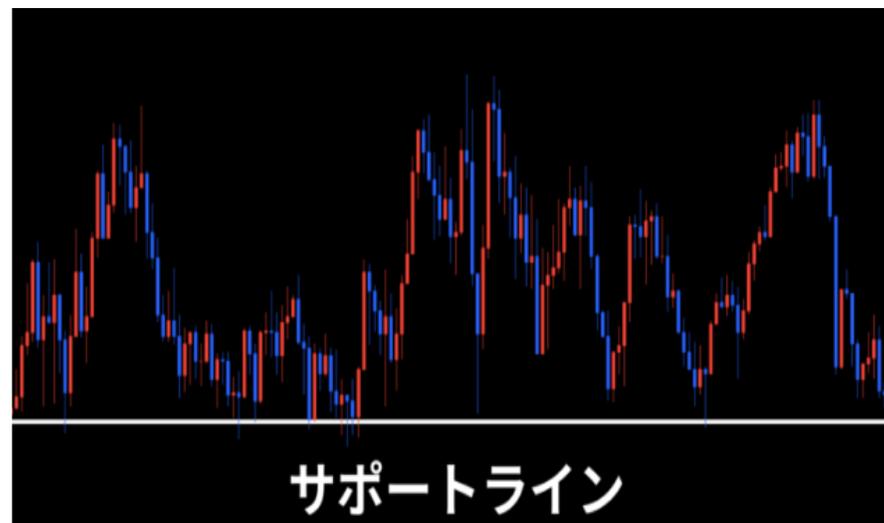
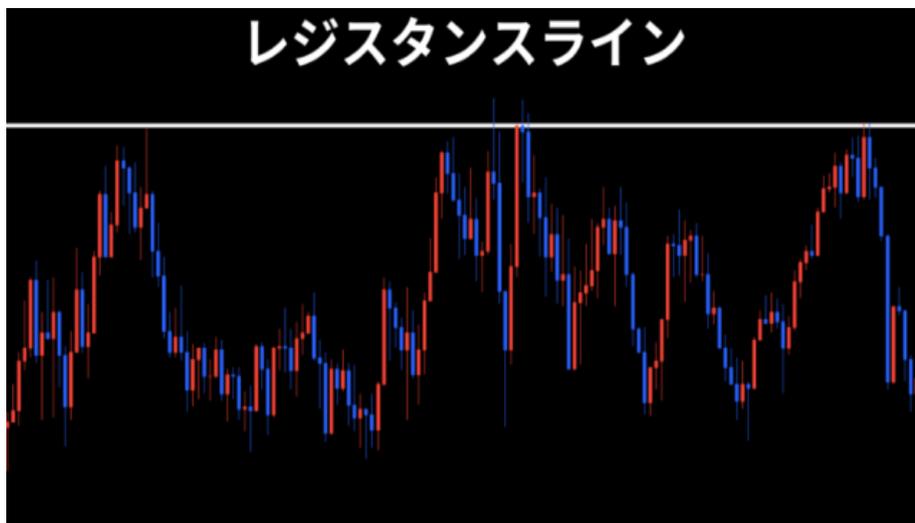
④ 水平線(レジスタンスライン、サポートライン)

水平線(レジスタンスライン、サポートライン)とは、チャートで特定の価格に水平のラインを引くテクニカル分析で

基本的には同じ価格帯の高値や安値に水平線を引き、ラインでの反発やブレイクを狙う手法として使われます。

多くのトレーダーが意識する価格にラインを引く事ができ、レンジ相場中のチャート上で目視しやすい事からテクニカル分析の基本として人気です。

- チャート上に引かれる水平線は大きく2種類存在し
- ・上値の抵抗線として引かれる【レジスタンスライン】
 - ・下値の支持線として引かれる【サポートライン】





サポートラインが引ける価格は下から支持される価格であり、何度も支持される個所として機能し、買い注文(ロング)が入りやすい傾向にあります。

(逆に売り注文が増えると買い支えが難しくサポートラインをブレイクして下降トレンドもしくは次のサポートラインの価格帯まで続落してしまいます)

レジスタンスラインが引かれる価格は上から抑えられる価格帯であり、何度も反発する力所として機能し、売り注文(ショート)が入りやすい傾向にあります

(逆に買い注文が増えると売り抑えが難しくレジスタンスラインをブレイクして上昇トレンドもしくは次のレジスタンスラインまで上昇してしまいます)

<水平線を使う時の注意点>

- ①水平線がブレイクするとレジスタンスとサポートで機能が変わります
サポートをブレイクすると、そのラインが反発点となりレジスタンスに
変わり、レジスタンスをブレイクすると、そのラインが支持されるサポート
として機能を始めます(レジサポ転換、サポレジ転換と言われます)
- ②水平線をブレイクすると必ずしもトレンドが発生するとは限らず
レンジ相場の水平線ブレイク後、次の価格帯で再びレンジ相場に突入する事も
有り得ます

③水平線を多用しない。

水平線を多用すると本命で引いたラインが分かりにくかったり
チャート自体も見づらく上手くトレードや分析が行えない要因になります

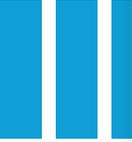
④ダマシには注意。

ダマシとは水平線をブレイクしたにも関わらず、ブレイク方向にローソク足が
伸びず再びブレイク前の価格帯まで戻ってくる現象

⑤ 平行チャネル(トレンドライン)

平行チャネルとはトレンドラインに対して平行にずらして引いた直線の事で平行チャネル自体の引き方にはルールが無い為、再現性のあるチャネルを引くにはトレンドラインの引き方のルールを元に自分の中で一定のルールを決める必要があります

トレンドラインには上昇トレンド中は安値同士を結ぶラインと下降トレンド中は高値同士を結ぶラインの2種類があります。



平行チャネルを引く目的はトレンドの値動きの幅を見る為に使います
相場のトレンドは一方向には動かず小さな値動きを繰り返しながら形成され
値動きの幅(ボラティリティ)が大きいほどトレンドの継続判別が困難になります

そこで値動きの高値と安値に合わせて平行チャネルを引くことで現在の価格が
トレンドのどの位置にあるのか、エントリーチャンスはどこなのかを判断出来る
ようになります

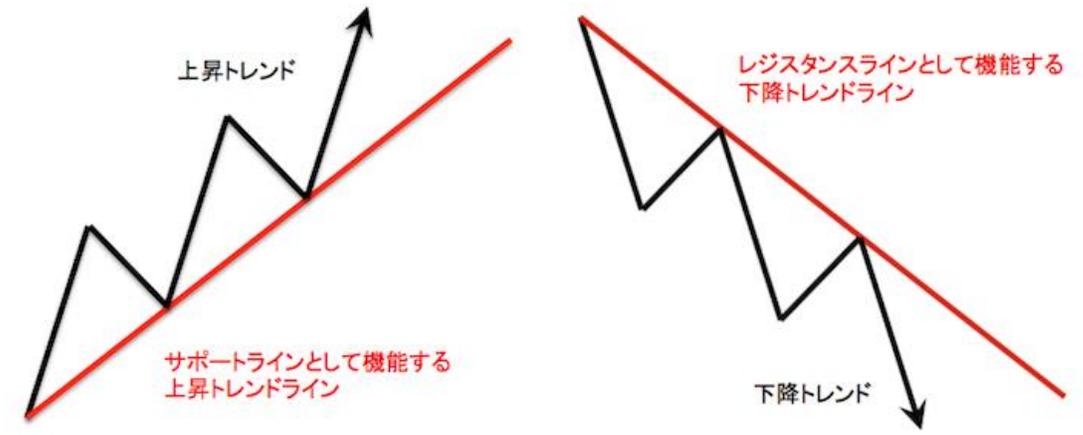


トレンドラインを引く目的は値動きの方向性を確認する為の重要な補助線です。
トレンドラインを用いると、ラインの傾きから現在のトレンドが【上昇】【下降】【レンジ】
のどれなのかを判断する事が出来ます。

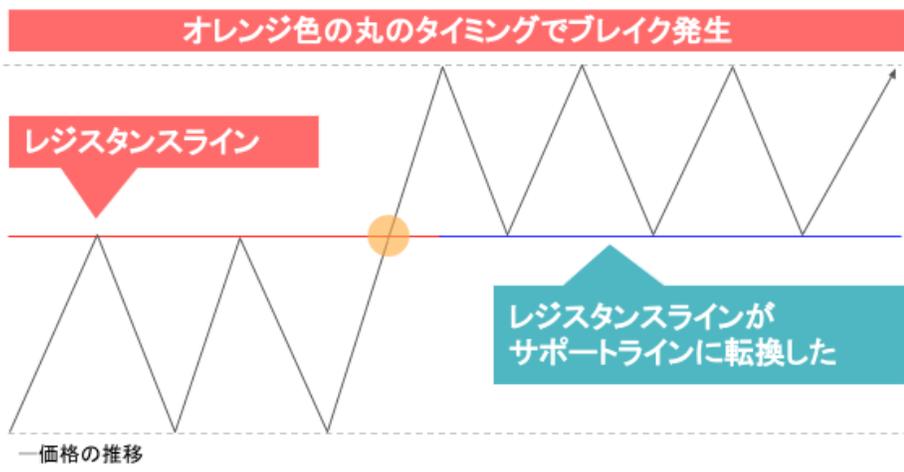
トレンドラインは水平線と同様に、ラインをブレイクするとトレンド転換示唆、
安値同士で引いたラインはサポートからレジスタンスへ
高値同士で引いたラインはレジスタンスからサポートへ
機能の転換が起こります



↑平行チャネル



↑トレンドライン



↑レジサポ転換